

## 早稲田大学 教育学部 物理 講評

|        |              |
|--------|--------------|
| 出題形式   | 記述式          |
| 試験時間   | 60分          |
| 特徴・その他 | 難易度・分量は昨年並み。 |

## 〔大問別講評〕

| 番号   | 出題内容                          | コメント   | 難易度 |
|------|-------------------------------|--|-----|
| [I]  | 導体極板間の電場による力と、ピストンシリンダによる定圧変化 | 大気圧による定圧変化を、一定な強さの電場による定圧変化に置き換えて作ったのだろうと推測される問題である。しかしながら、定積モル比熱が与えられていないので、内部エネルギーを具体的に求められないのである。理想気体であっても、直ちに単原子分子気体とは言えない。したがって、指示通りの物理量で答えが書けないのが問5、問6である。答えの例として二通りで表しておいた。 | 標準  |
| [II] | 地磁気による荷電粒子の運動                 | 一見、難しそうだが、容易である。また、力の名称を答えさせる問題は、あたかも、高校の定期試験のようである。設問内容は基本的である。   | やや易 |